

# 2021年度入試に関する予告一覧

※表は、各大学の資料をもとに河合塾で作成したものです（9/12現在）。掲載内容は変更される可能性がありますので、最新情報は各大学公表資料を必ずご確認ください。

※「英語認定試験」とは、「大学入試英語成績提供システム」に参加する資格・検定試験を表します。

※国語記述式、英語認定試験それぞれの「利用」欄は、利用有無を表しています。●：必須 ▲：任意（必須ではない）×：利用しない

※英語認定試験の利用方法が判明している場合は「出願資格」「加点」「換算」のいずれか該当する欄に○を付しています。これら3つに該当しない場合は「その他」に○を付しています。

※出願資格として課す大学のうち必要なCEFRレベルが判明している場合は、そのCEFRレベルを記しています。

また、英語認定試験に加え、評定平均・卒業年度などの要件を満たすことが必要な場合や、その他の要件を満たしていれば出願可能な場合もありますが、本表では割愛しています。

※一部の学部または選抜のみで国語記述式や英語認定試験を必須で課す大学も「●：必須」としています。

## 【国立大学】

大学	選抜方式	共通テストの利用について									出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他	
		国語記述式		英語認定試験					その他						
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他		活用の具体					
旭川医科	一般	●		●	○ A2 ※						※医-看護はA1	5教科7科目を課す	・個別試験では、論理的思考力・判断力・表現力を評価する高度な記述式試験を課す ・医-医-後の個別試験を変更（理・面→英・面）し、共通テストおよび個別試験の配点を変更する	・全ての選抜において、高大接続及び学力の3要素評価の観点から、課題論文や面接等の評価方法に併せて調査書や志願者本人が記載する資料等を活用	
	総合型・ 学校推薦型			● ※	○ A2						※医-看護は活用しない			・全ての選抜において、高大接続及び学力の3要素評価の観点から、課題論文や面接等の評価方法に併せて調査書や志願者本人が記載する資料等を活用	
小樽商科	一般	●	点数化して加点 (夜間-前を含む)	●	○ -	○ ※1					※1昼間-数学重視枠-前を除き、点数化して共通テスト外国語に加算（共通テスト外国語の200点満点を加点の上限とする）	5教科7科目を課す	・前期（昼間）で英語重視枠、数学重視枠の新設 ・後期（昼間）で「調査書および活動報告書」を評価（50点満点）	・一般選抜後期では、調査書や志願者本人が記載する資料を活用して評価する	
	総合型			●	○ B1 ※1						・第一次選抜で評価の対象とする。2年以内に受験していることを条件とし、成績提供が必要だが、成績提供システムを介しての提供に限らない（英検（従来型）も可） ※1一般枠はB1、理系枠はCEFR段階別評価を問わない	公表	・グローバル総合入試（総合型選抜）の新設「知識・技能」を基盤とした「思考力・判断力・表現力」を評価するため、口頭試問を実施する	・調査書や志願者本人が記載する資料を活用して評価する	
	学校推薦型	●	点数化して加点	●	○						・2年以内に受験していることを条件とし、成績提供が必要だが、英語成績提供システムを介しての提供に限らず、点数化もしない（英検（従来型）も可）	公表		・調査書や志願者本人が記載する資料を活用して評価する	
帯広畜産	一般	●	点数化して加点（加点の最高点は国語としての満点の2割）	●	○ A1							現行入試と同様	・前期では、募集人員の95%程度は共通テスト+個別試験の総合点の高い順に合格者を決定し、残りの合格者の合否判定は調査書を総合して決定する	・後期では、面接の参考資料として調査書を活用する	
	学校推薦型													・面接の参考資料として調査書を活用する	
北見工業	一般	●		▲		○					点数化して加点（配点は前期：共通テスト外国語200点、英語認定試験50点。後期：共通テスト160点、英語認定試験40点） なお、認定試験の成績提出が無い場合は加点0点で判定	5教科7科目を課す	・A選考・B選考による選抜を行う A選考：共通テスト+英語認定試験+個別試験（後期のみ）で判定を行い、合格予定者数の約9割の合格者を決定 B選考：調査書を点数化し共通テストに加点した上で志望理由書を活用し、全体の合格予定者数からA選考合格者を除いた数の合格者数を決定（選考対象はB選考合格者数の2倍程度）	・志望理由書を評価する	募集人員 公表
	総合型												・コース確定枠、第一次産業振興枠、冬季スポーツ枠を実施	・コース確定枠、第一次産業振興枠では、学修計画書及び面接により評価する	
	学校推薦型													・志望理由書及び面接により評価する	
北海道	一般	●	点数化して加点	×									・歯学部において、前期で個別試験に加えて面接を課す。また、後期日程を廃止する		
	総合型	●	点数化して加点	×								理-地球惑星科学、水産、歯学部公表	・理-地球惑星科学、歯・水産学部のA〇入試を共通テストに課す選抜に変更 ・理-地球惑星科学の第2次選考は、課題論文から総合問題に変更 ・水産学部の第2次選考の課題論文廃止 ・医-医の評価書類と配点の変更 第1次選考：「個人評価書」廃止、「コンピテンシー評価」を採用 第2次選考：「コンピテンシー評価」を採用 ※コンピテンシー評価：学習活動及び諸活動の記録について高等学校等の教員が多段階評価のうえWebから入力したものに対して、医学科が求める資質及び能力を持った人物を選抜する観点から評価するもの	・国際総合入試の出願要件（IBの履修指定科目）を変更	

大学	選抜方式	共通テストの利用について							出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他	
		国語記述式		英語認定試験									
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他					活用の具体
北海道教育	一般	●	点数化して加点	▲		○			共通テスト英語に加点（満点を上限） B2以上：40点 B1：30点 A2：10点 A1：0点	現行入試と同様			
	学校推薦型（函館校除く）・総合型（岩見沢一芸術・スポーツビジネス除く）			×									
	学校推薦型（函館校）			▲		○			B1以上で全体の得点に加点して活用（認定試験のほか、TOEIC LR&SW、国連英検も対象）				
	総合型（岩見沢一芸術・スポーツビジネス）			●	○	B1			TOEIC LR&SWも対象				
	総合型（教員養成特別入試）			▲		○			共通テスト英語に加点（満点を上限） B2以上：40点 B1：30点 A2：10点 A1：0点				
室蘭工業	一般	●		●		○			共通テスト英語に加点	共通テスト利用教科・科目公表	・前期では、数理の「知識・技能」「思考力・判断力」「表現力」を特に重視して評価する ・後期では、総合的な「知識・技能」「思考力・判断力」を特に重視して評価する	・調査書を評価する	募集人員公表
	総合型・学校推薦型										・総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ・夜間主）では、基礎学力検定、面接及び自己推薦書、調査書により選抜する ・総合型選抜Ⅱでは、面接において課題研究プレゼンテーションを課す ・学校推薦型選抜では、共通テスト（数・理）、推薦書及び志望理由書、調査書により選抜する	・総合型選抜Ⅱでは、高等学校等で主体的に多様な人と課題研究に取り組んだ経験と、本学の専門分野への「関心・意欲」を特に重視して評価する	募集人員公表
弘前	一般	●	点数化して加点（配点はマーク式200点、記述式40点を200点満点に換算） A：40点 B：30点 C：20点 D：10点 E：0点	●		○			共通テスト英語に加点（配点は、共通テスト200点（R、L各100点）、英語認定試験40点、計240点を200点満点に換算） C2：40点 C1：35点 B2：30点 B1：25点 A2：20点 A1：10点 A1以下：0点	公表	・個別学力検査で、より論理的な思考を問うための記述式の設問を拡充する ・教育-中学校-音楽・美術・保健体育の各専修で前期日程廃止（総合型選抜のみの募集に） ・一部学部・学科で個別試験の科目変更あり。医-医-前では、個別学力検査の英語・数学を廃止し、文章や資料の読解、分析を含め総合的思考力を試す総合問題を課す	・教育を除く全学部で志望理由書の提出を求める。教育、医-医を除き、調査書及び志望理由書を段階評価し個別学力検査等の合計点に加点して利用する ・教育学部では調査書、医-医では調査書及び志望理由書を面接試験の参考とする	募集人員公表（一般選抜→総合型選抜に募集人員シフト）
	総合型	●	点数化して加点（配点はマーク式200点、記述式40点を200点満点に換算） A：40点 B：30点 C：20点 D：10点 E：0点	●		○			共通テスト英語に加点（配点は、共通テスト200点（R、L各100点）、英語認定試験40点、計240点を200点満点に換算） C2：40点 C1：35点 B2：30点 B1：25点 A2：20点 A1：10点 A1以下：0点	公表	・教育-中学校-美術で総合型選抜を新規実施 ・教育-特別支援教育・養護教諭の総合型選抜は、共通テストを課す選抜に変更 ・総合型選抜Ⅰ合格者は、共通テスト・英語認定試験の受験が必須 ・医-医の総合型選抜Ⅱで、2段階選抜を廃止し、共通テストと個別学力検査等の総合点で判定する	・総合型選抜では、調査書や志望理由書等を段階評価し、個別学力検査等の合計点に加点して利用	募集人員公表（一般選抜→総合型選抜に募集人員シフト）
岩手	一般	●	点数化して加点	●		○			共通テスト英語に加点	公表	・教育学部-後で集団討論を追加 ・農学部-前で大学入学希望理由書の提出が必要になる	・学力の3要素を多面的・総合的に評価する	募集人員公表（一部変更あり）
	総合型	●	点数化して加点	●		○			共通テスト英語に加点	公表	・人文社会科学部で総合型選抜を廃止 ・教育-小学校教育、特別支援教育で総合型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）を新規実施 ・農学部で総合型選抜Ⅱ（共通テストを課す）を新規実施	・学力の3要素を多面的・総合的に評価する	募集人員公表（一部変更あり）
	学校推薦型									公表	・教育-小学校教育、特別支援教育で学校推薦型を廃止 ・農-共同獣医で学校推薦型を廃止	・学力の3要素を多面的・総合的に評価する	募集人員公表（一部変更あり）

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他
		国語記述式		英語認定試験				活用 の 具体	その他				
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算						
東北	一般	●	点数化して合否判定に用いることはせず、合否ラインに同点に並んだ場合、記述式問題の成績評価が高い者を優先的に合格とする	×								・志願票に調査書と対応した5項目程度のチェックリスト項目を設け志願者がこれをチェックする自己申告方式をとる。合否ラインで同点に並んだ場合にそのチェックリストによる主体性評価が高い受験者を優先的に合格とする	
	総合型 (現行のAO入試Ⅲ期)	●	点数化して合否判定に用いることはせず、合否ラインに同点に並んだ場合、記述式問題の成績評価が高い者を優先的に合格とする	×							・第1次選考は行わないよう努めるが、やむを得ず第1次選考を行う学部・学科等においては、第1次選考の資料の一つとして、志願者が自己採点した共通テストの成績(マーク式のみ)を利用する ・第2次選考においては、共通テストの正式な成績(記述式含む)及び各学部・学科が課す選抜資料(面接試験、筆記試験、出願書類等)により総合的に合格者を決定する ・英語の資格・検定試験(認定試験以外を含む)は現行通り「学内外の様々な学習成果や活用実績等」の一つとして評価の対象とする		
	総合型 (AOⅡ期)										・教育、医-保健において新規実施(共通テストは課さない)	募集人員 公表	
宮城教育	一般	●	点数化して加点	●	○ A1					5教科7科目を課す			
	学校推薦型										・募集人員、出願資格、出願要件、試験科目、評価方法に大きな変更はない(共通テストは課さない)		
秋田	一般	●	点数化して加点(国語全体の満点の2割以内)	●	○					5教科7科目を課す	・教育文化学部(前期)の個別試験で科目変更あり	・面接により「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価、調査書も活用する	
	学校推薦型	●	点数化して加点(国語全体の満点の2割以内)	●	○						・教育文化-地域文化で総合型選抜(共通テストを課さない)を新規実施 ・教育文化-地域文化の学校推薦型選抜は、共通テストを課す選抜に変更 ・理工学部は推薦入試を廃止し、総合型選抜Ⅲ(共通テストを課す)を新規実施	・学力の3要素の評価のため、共通テストを課す選抜では小論文・面接等を実施し、調査書を活用する。共通テストを課さない選抜では、プレゼンテーション・小論文・面接等を実施し、調査書を活用する	
山形	一般	●	点数化して加点	●	○ ※1 A2 ※2 ※3					5教科7科目を課す	・個別試験の変更 人文社会科学-後:英語→小論文 地域教育文化-後:面接→小論文 工-後:課さない→小論文		
	総合型・ 学校推薦型			●	○ ※						※人文社会科学部の学校推薦型選抜Ⅱ、工学部(昼間)の総合型選抜Ⅲのみ共通テスト英語に加点		
福島	一般	●	点数化して加点	●	○					公表	・原則としてA選考・B選考の二段階で合格者を決定する A選考:募集人員の95%程度については、共通テスト+個別試験の合計点の上位者を合格とする B選考:合格予定者数からA選考合格者数を引いた数の2倍の受験者を対象に、共通テスト+個別試験+調査書の評価得点の合計点で合格者を決定する(調査書の評価得点の加点割合は、共通テスト+個別試験の合計点に対して2~3%の間で各学類が定める) ・経済経営学類の専門学科・総合学科卒業生入試の廃止 ・その他、詳細な変更点公表	・調査書を活用して主体性を評価する(食農学群-後を除く) ・食農学群-後では、面接により主体性を評価する	募集人員 公表
	総合型・ 学校推薦型	●	点数化して加点	●	○					選抜方法の変更がある学類のみ公表	・人間発達文化学類(芸術・表現コース、スポーツ健康科学コース)、経済経営学類において総合型選抜を新設 ・その他、詳細な変更点公表		募集人員 公表

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他
		国語記述式		英語認定試験				活用 の 具体	その他				
		利用	活用 の 具体	利用	出願資格	加点	換算						
茨城	一般	●	点数化して加点	●		○				5教科7科目を課す	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての学部において個別試験を課し、学力の3要素を多面的・総合的に評価する丁寧な入試を実施。また、思考力・判断力・表現力をより一層測る出題に努める</li> <li>理学部（数理情報を除く）、農学部の後期では、個別学力検査を課す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接あるいはプレゼンテーション等を課して評価（段階別評価）、それらを課すことができない場合は、受験生の申告によるチェックシート、調査書やポートフォリオ等を活用（配点50点）</li> <li>ポートフォリオまたは調査書は、高等学校において、受験者が教科学習、部活動、生徒会活動、ボランティア活動、取得資格等に取り組む中で、どのように学びに向き合ってきたか、また、主体性等をいかに高めてきたのかを主に評価するものとして活用</li> </ul>	募集人員の変更あり
	総合型・学校推薦型										<ul style="list-style-type: none"> <li>工学部5学科の学校推薦型選抜で、小論文を追加</li> <li>理学部（化学、生物科学、地球環境科学、学際理学）の総合型選抜は、第2次選考で共通テストを課す</li> <li>エー都市システム工（建築デザインプログラム）の総合型選抜は、面接・プレゼンテーション・小論文を課す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書だけでなく入学希望理由書や学修計画書等の提出資料を活用</li> <li>面接あるいはプレゼンテーション等を課して段階別に評価する（配点50点）</li> <li>ポートフォリオまたは調査書は、高等学校において、受験者が教科学習、部活動、生徒会活動、ボランティア活動、取得資格等に取り組む中で、どのように学びに向き合ってきたか、また、主体性等をいかに高めてきたのかを主に評価するものとして活用</li> </ul>	募集人員の変更あり
筑波技術	一般	●	点数化して加点 ・産業技術学部の配点はマーク式（現のみ）160点、記述式40点 ・保健科学部の配点はマーク式100点、記述式20点 A:20点 B:15点 C:10点 D:5点 E:0点	×						保健科学部公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健科学部では、共通テスト理科と地公の選択が可能になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健科学部では、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価するため、生徒の特性や個性、多様な学習や活動の履歴などをより適切に評価できるよう、調査書等の提出書類を評価対象とする</li> </ul>	
筑波	一般	●	総合評価の段階ごとに点数化して加点（マークシート式200点、記述式40点の合計240点を200点に圧縮） A:40点 B:30点 C:20点 D:10点 E:0点	▲		○				公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期で「総合選抜」を導入（文系128名、理系Ⅰ154名、理系Ⅱ41名、理系Ⅲ90名）。体育専門学群を除く全学群・学類に進学可能</li> <li>前期の従来の選抜区分は「学類・専門学群選抜」に改称。学類・専門学群選抜では、次の学群（学類）で前期日程廃止。人文・文化-日本語・日本文化、情報-知能情報・図書館</li> <li>後期日程を次の学群（学類）で廃止。人文・文化-比較文化、情報-情報科学・情報メディア創成</li> <li>後期を次の学群（学類）で新規実施。人間-教育・心理・障害科学、理工-物理・化学</li> <li>前期（総合選抜）で調査書をもとに「主体性等」の評価を行い、点数化（50点）して合否判定に利用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学群・学類により面接・小論文・適性試験・調査書等の異なる方法で主体性を評価する（学群・学類ごとの詳細公表済み）</li> </ul>	募集人員公表
	総合型・学校推薦型									学校推薦型選抜公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間-心理の推薦入試を共通テストを課す選抜に変更</li> <li>アドミッションセンター入試を次の学群（学類）で廃止。生命環境-生物資源・地球、理工-数学・化学・工学システム、芸術専門</li> <li>国際科学オリンピック特別入試を次の学群（学類）で廃止。生命環境-地球、理工-数学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合選抜」では「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書の記載事項について点数化（50点）して活用</li> <li>「学類・専門学群選抜」においても「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する予定</li> </ul>	募集人員公表
宇都宮	一般	●		●		○				5教科7科目を課す	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科・科目において論理的思考力・判断力・表現力を評価する試験を課す</li> <li>地域デザイン科学-建築都市デザイン-後、農-後（農業経済を除く）で、面接を新規実施</li> <li>地域デザイン科学-社会基盤デザイン-後、工-基盤工-後で、小論文を新規実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的・総合的評価の実施のために、調査書や志願者本人が記載する資料等の活用方法を検討中</li> </ul>	
群馬	一般	●	点数化して加点（マークシート式200点に対し、記述式を最大40点加点し、200点に換算する）	▲		○				5教科7科目を課す	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別学力検査では、「知識・技能」の評価に加え、「論理的思考力・判断力・表現力」を評価する高度な記述式の試験を課す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接や調査書等書類により、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価</li> <li>※提出書類はJAPAN e-Portfolioを利用した提出が可能だが、従来どおりの紙媒体による提出も平等に取り扱う</li> </ul>	理工学部を改組予定
	総合型・学校推薦型									公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定の学力を担保するために、調査書や推薦書等の出願書類に加えて、小論文や面接、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など多様な評価方法を活用する（共通テストは課さない）</li> </ul>		
埼玉	一般	●	点数化して加点	▲	○	A2				5教科7科目を課す	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な記述式試験の実施については、各教科・科目において、一層論理的な思考力・判断力・表現力等を適切に評価する作問に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的・総合的評価を実現するため、調査書や志願者本人が記載する資料等の活用方法を検討</li> </ul>	

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他		
		国語記述式		英語認定試験					その他						
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他						活用の具体	
千葉	一般	●	点数化して加点 (配点はマークシート式80%記述式20%) A: 20% B: 15% C: 10% D: 5% E: 0%	●	○ A2						公表	・国際教養・園芸・薬学部の個別試験において、理科の指定科目変更(理科増の学科あり) ・文-行動科学の共通テスト「英語」において新たにリスニングを課す(現行は筆記のみ) ・英語外部試験利用を医学部を除く全学部に拡大。大学が定めるスコアを有する場合、学部により個別試験「英語」の得点を満点に換算または所定の点数を加点する(対象試験は2018年4月1日以降に受験したもの、成績提供システムでの提出に限らない)	・調査書を活用する	・募集人員の変更あり	
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点									・法政経学科の総合型選抜において、出願資格の英語外部試験スコア、選抜方法に変更あり ・理-地球科学、工-総合工において総合型選抜を新規実施 ・理-地球科学において学校推薦型選抜を廃止 ・看護-看護の学校推薦型選抜において共通テストを課す		・募集人員の変更あり	
お茶の水女子	一般	●	点数化して加点	●	○ A2						一部の学科の後期日程を除き、原則5教科7(8)科目を課す	・理-数学の後期で、個別試験の廃止 ・理-情報科学の後期で、個別試験を数学から論述試験に変更	・調査書を活用する	募集人員公表	
	総合型・学校推薦型											・理学部で、学校推薦型選抜の廃止	・総合型選抜は、本人が提出する活動報告書や志望理由書を活用する ・学校推薦型選抜は、学校長が作成する推薦書や調査書を活用する	募集人員公表	
電気通信	一般	●		●	○ A2						5教科7科目を課す		・主体性等の評価のため、調査書(具体的には、科学コンテスト等での受賞歴についての記載と賞状等の写し)を活用する		
	総合型			●	○	○						・総合型選抜を新規実施(共通テストは課さない)	・高校での主体的な活動や、高大接続型の事前スクーリングでの積極的な活動を重視		
	学校推薦型			●	○	○									
東京	一般			▲	○ A2						高等学校等による英語力についての証明書や、認定試験成績・証明書を提出できない理由書での代替可				
東京医科歯科	一般	●	・2段階選抜を実施しない専攻は、点数化して加点 ・2段階選抜を実施する学科は、第1段階選抜にはマークシート式問題の得点のみ活用し、2段階選抜では記述式問題を点数化して加点	▲	○ A2						高等学校長による証明書で代替可	5教科7科目を課す	・全学科・専攻において、共通テスト「簿記・会計」「情報関係基礎」が選択不可に		
東京外国語	一般	●	点数化して加点	●	○ A2							・個別試験の英語以外の外国語を廃止 ・前期において、英語スピーキングテスト(BCT-S)を全学に拡大 ・国際社会学部-後: 外国語→小論文(英語の課題文を読み日本語で解答)			
	学校推薦型											・国際社会学部推薦入試の出願要件において、英語以外の指定された外国語のCEFRがB2以上の言語能力を有する証明文書を提出した場合、英語の要件はCEFR: B1以上となる			
東京学芸	一般	●	点数化して加点 (マーク式160点、国語記述式40点) A: 40点 B: 30点 C: 20点 D: 10点 E: 加点なし	▲		○					共通テスト英語に加点(共通テスト160点、英語認定試験40点の計200点満点) B2以上: 40点 B1: 30点 A2: 15点 A1: 加点なし	科目変更なし 個別試験利用科目公表			
	学校推薦型											個別試験利用科目公表		国際バカロレア選抜を新規導入	

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他
		国語記述式		英語認定試験					その他				
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他					
東京芸術	一般 (音楽)	●	点数化して加 点	▲				○		条件を満たした場合、共通テスト英語の得点を満点とみなす(対象試験は、英検、IELTS、TOEFL iBT、ケンブリッジ英検 ※2019年2月以降に受験した試験が活用可)		・英語4技能を習得している旨を示す資料として、現行の調査書を充てる(新たに記載を求める事項はない)	
	一般 (美術)			●				○		共通テスト英語(160点に圧縮)に加点 B2以上:40点 B1:30点 A2:20点 A1:10点 A1未満:加点なし		・共通テスト外国語が必須になる	
東京工業	一般	●	点数化して加 点	●	○ A2	○				出願資格及び前期個別試験英語の結果に活用(配点150点中30点)	5教科7科目を課す。共通テストは第1段階選抜に利用	・生命理工学院の後期日程廃止	
	総合型	●	点数化して加 点	●	○ A2						5教科7科目を課す 共通テストは第1段階選抜に利用		・学力の3要素をより多面的・総合的に評価するために調査書や志願者本人が記載する資料等を活用する ・調査書の評価は、第2段階選抜の総合問題(100点)の内に含める
	学校推薦 型	●	点数化して加 点	●	○ A2						5教科7科目を課す 共通テストは第1段階選抜に利用		・学力の3要素をより多面的・総合的に評価するために調査書や志願者本人が記載する資料等を活用する
東京海洋	一般	●	点数化して加 点	●	○ A2 ※					※海洋工はA1海洋生命科学、海洋資源環境学部では、経過措置として2020年度入試の出願要件を満たす場合も可。海洋工は理由書の提出で代替可	5教科7科目を課す	・論理的思考力・判断力・表現力をより適切に評価する記述式問題を課す	・調査書と受験者が記載した資料を活用して、多面的・総合的に評価する
	総合型・ 学校推薦 型			●	○ A1 ※					※新特別選抜(総合型選抜)のみ		・一定の学力を持つことを評価するため、共通テストの受験を課す選抜の導入を検討中	・学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、調査書と推薦書および受験者が記載した資料を活用する ・提出された資料、小論文、面接などの結果を、多面的・総合的に評価する
東京農工	一般	●	点数化して加 点	●	○ A2					スコアを提出できない理由書の提出で代替可			
一橋	一般	●	点数化して加 点(第1段階選抜では、配点はマーク式を200点→160点に、記述式を50点→40点に換算して利用。第2次試験合格者決定には合計点を学部ごとに定める配点に従い換算して利用)	▲	○ A2					高等学校等による証明書、スコアを提出できない理由書の提出で代替可※ただし既卒生は高等学校等による証明書は適用されない	科目変更なし	・Web出願を導入 ・共通テスト英語の配点は、第1段階選抜ではR100点、L100点の素点を利用する。なお、第2次試験合格者の決定には、合計点を学部ごとに定める配点に従い換算し利用する ・合否ラインで志願者が同点で並んだ場合、調査書の内容を質的な観点から点数化して評価し、総合点の高い者から合格とする	
	学校推薦 型	●	点数化して加 点(第1段階選抜では、配点はマーク式を200点→160点に、記述式を50点→40点に換算して利用。第2次試験合格者決定には合計点を学部ごとに定める配点に従い換算して利用)									・Web出願を導入 ・共通テスト英語の配点は、第1段階選抜ではR100点、L100点の素点を利用する。なお、第2次試験合格者の決定には、合計点を学部ごとに定める配点に従い換算し利用する ・推薦書、調査書を合わせて40点、自己推薦書を10点に点数化し、第2次試験の選抜に活用する(推薦書、自己推薦書の様式公表)	

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他		
		国語記述式		英語認定試験				その他							
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算		その他					活用の具体	
横浜国立	一般	●	点数化して加点 (加点は下記の割合に相当する点数) A: 20% B: 15% C: 12.5% D: 10% E: 加点なし	●	○ A1 ※1	○ ※2			※1経済学部はA2 ※2教育学部、都市科学-都市社会共生においては、さらに点数化して共通テスト英語に加点  英語の配点全体に対する加点比率 教育学部 A2以上: 20% A1: 10% 都市社会共生学科 C2: 20% C1: 16% B2: 12% B1: 8% A2: 4%	5教科7科目を課す	公表	・第1段階選抜の変更 経営学部-前: 新規実施(予告倍率6倍)、経済学部-後: 予告倍率12倍→15倍へ引き上げ  ・共通テスト利用科目の変更 経済学部-前・後: 理科②の科目数減(2→1科目)、地歴Aの選択が不可になる  ・個別試験科目の変更 経営学部-前: 個別試験を課す(数学または英語を出願時に選択) 都市科学-都市社会共生-前: 外国語・小論文→小論文、後: 外国語・小論文→面接に変更	・出願時に調査書と自己推薦書の提出を求める(自己推薦書は400字以内で記入)	募集人員 公表	
	総合型			●	○ ※	○		○	※出願資格はA1またはA2、学部により異なる。一部学部では、出願資格に加え共通テスト英語に加点して利用するほか、第1次選抜に利用する		公表	・経済学部において、一般プログラムでの学修を希望する方のための総合型選抜を新規実施する。英語認定試験を出願資格として活用(A2以上)するほか、志願者が募集人員の2倍を超えた場合は認定試験成績により第1次選抜を行う		募集人員 公表	
	学校推薦型(教育学部)			●	○								・共通テストは課さないが、認定試験の受験を必須とする		募集人員 公表
長岡技術科学	一般	×		●		○			共通テスト英語に加点(配点は共通テスト英語200点、英語認定試験40点を200点満点に換算)  C1以上: 40点 B2: 35点 B1: 30点 A2: 25点 A1: 10点	5教科7科目を課す		・個別選抜では、「思考力・判断力・表現力」を評価するため、国語を課す。国語は論理的な文章2つを題材とし、小問3つからなる大問1つを出題する。小問は共通テスト国語記述式に準ずる問題2つと200~300字程度で自分の考えを解答する問題1つで構成する	・学力の3要素のうち、とくに「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書、志願者本人が記載する「志望調書」を活用		
	学校推薦型											思考力、判断力、表現力を評価するため、小論文を課す。人物、適性及び基礎学力を評価するため、面接を課す	・学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、調査書、志願者本人が記載する資料を活用		
新潟	一般	●	点数化して加点(加点する最高点は満点の2割)	●		○			共通テスト英語に加点(共通テスト英語+英語認定試験を200点満点と換算した場合、英語認定試験の最高点を40点とする) C1以上: 40点 B2: 35点 B1: 30点 A2: 25点 A1: 10点		公表	・創生学部、教育学部の後期日程を廃止  ・理学部の前期日程の選抜区分が「理数重点選抜」「理科重点選抜」「野外科学志向選抜」に変更	・すべての入試区分において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用するよう努める	募集人員 公表	
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点(加点する最高点は満点の2割)	●		○			共通テスト英語に加点(共通テスト英語+英語認定試験を200点満点と換算した場合、英語認定試験の最高点を40点とする) C1以上: 40点 B2: 35点 B1: 30点 A2: 25点 A1: 10点			・創生学部推薦入試廃止  ・創生学部、理学部で総合型選抜を導入。共通テストの成績を合否判定に利用  ・理学部の学校推薦型選抜において、化学、生物学、地質科学、自然環境科学の4プログラムで共通テストを課す選抜に変更	・すべての入試区分において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用するよう努める	募集人員 公表	
上越教育	一般	●	総合評価の段階ごとに点数化して加点(加点する最高点は国語全体の満点の2割)	●	○ A1										
	学校推薦型	●	総合評価の段階ごとに点数化して加点(加点する最高点は国語全体の満点の2割)	●	○ A1										
富山	一般	●	点数化して加点	▲		○			共通テスト英語と比較し高得点の方を利用する  C1以上: 200点満点 B2: 190点			・工-知能情報工学・応用化学の前期個別試験で、理科の選択科目変更(生物の選択が不可になる)  ・調査書を面接の一部として点数化し、合否判定に活用。前期は医-医、後期は医、薬、工、都市デザイン-都市交通デザインを対象とする。その他の学部については、調査書の内容を5段階評価し、合否判定の参考資料とする	・主体性、多様性、協働性を評価するため、全ての入試区分において、調査書や志願者本人が記載する資料等を合否判定に活用	理学部で 募集人員 変更あり	
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点								人間発達科学部 公表	・人間発達科学-人間環境システムで推薦入試を廃止し、共通テストを課すA〇入試を新規実施する(※地域スポーツコースは共通テストを課さない)  ・理-物理・生物で推薦入試を廃止し、A〇入試を新規実施する  ・経済学部でA〇入試(共通テストを課す)新規実施する	・主体性、多様性、協働性を評価するため、全ての入試区分において、調査書や志願者本人が記載する資料等を合否判定に活用  ・理、都市デザイン学部の総合型選抜において、調査書を書類審査として点数化し、合否判定に活用		

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他		
		国語記述式		英語認定試験					その他						
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他						活用の具体	
金沢	一般	●	点数化して加点	●	○ A1 ※					※人文、法、国際、医学類はA2（一括入試は未定）	5教科7科目を課す	公表	・後期日程の廃止		募集人員 公表
	総合型・ 学校推薦 型			×								公表	・全学域で「KUGS特別入試」を導入（学域により総合型選抜Ⅰ・Ⅱ、学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱの4つの選抜を設ける）。志願者の能力・資質および意欲に重点をおいた選抜を行う。  ・超然特別入試（共通テストを課さない総合型選抜）を新規実施	・口述試験や小論文により「主体性」「協働性」などを評価する	
福井	一般	●	点数化して加点（加点後の点数を大学の配点に換算）	●	○ A1		○ ※			※国際地域学部では、C1以上で共通テスト英語を満点に換算する  高等学校等の調査書とスコアを提出できない理由書で代替可	5教科7科目を課す	公表		・学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、全学域で調査書等の資料を活用する。また、教育学部および国際地域学部で「本人の記載する資料」として「志願理由書」の提出を課す	
	総合型・ 学校推薦 型	●	点数化して加点（加点後の点数を大学の配点に換算）	●	○ A1		○ ※			※国際地域学部では、C1以上で共通テスト英語を満点に換算する  高等学校等の調査書とスコアを提出できない理由書で代替可		公表		・学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、総合型選抜においては、教育学部、工学部および国際地域学部で調査書とあわせ「本人の記載する資料」として「志願理由書」および「自己推薦書」の提出を課す。国際地域学部では「本人の記載する資料」として「志願理由書」および「高等学校での取り組みと成果に関するレポート」の提出を課す  ・学校推薦型選抜においては、全学域で「調査書」「推薦書」とあわせ「本人の記載する資料」として「志願理由書」の提出を課す	
山梨	一般	●	総合評価を点数化して加点（マーク式200点に記述式20点を加算し、200点満点に換算） A：20点 B：15点 C：10点 D：5点 E：加点なし	●	○ A1 ※					※医-医、工、生命環境学部はA2（既卒生も受験年度の4月～12月に受験した成績を対象とする）	5教科7科目を課す（一部学部の後期で3教科3科目あり）	公表	・個別試験において、教科・科目による学力検査、小論文などの記述式問題の導入・充実に向けて取り組む  ・教育学部-前：全コースで集団面接実施、一部コースで個別試験の科目変更あり  ・生命環境学部-前：個別試験を学科試験→小論文（2問）に変更（共通テストに対する配点比率は1割～2割程度）。総合的な設問により、知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価する 文章読解型：文章理解力、論述力の評価（英文やデータ資料等を含む場合がある） 資料データ分析型：図表データの分析力、表現力の評価	高校での学習活動や課外活動などの実績、学習意欲等を含めた学力試験では測ることのできない資質・能力・態度をより適切に評価するために、次の書類の提出を求める ・調査書（全入試区分）  ・多面的・総合的な評価のための申告書資料（志願者本人作成の「活動報告書」「大学入学希望理由書」「学修計画書」の3つの要素を含んだ書式・内容。（一部の一般選抜）  ・学科などにより「活動実績報告書」「面接用事前レポート」「誓約書」等を課す場合がある	募集人員 公表
	総合型・ 学校推薦 型	●	総合評価を点数化して加点（マーク式200点に記述式20点を加算し、200点満点に換算） A：20点 B：15点 C：10点 D：5点 E：加点なし	●	○ A2 ※					※生命環境学部の総合型選抜Ⅱ、医-医の学校推薦型選抜Ⅱ（既卒生も受験年度の4月～12月に受験した成績を対象とする）		公表	・医学科の学校推薦型選抜Ⅱおよび生命環境学部の総合型選抜Ⅱでは英語認定試験を課す  ・工学部で総合型選抜を全学科に拡大（専門・総合学科対象の推薦入試廃止）  ・生命環境学部で総合型選抜を新規実施	高校での学習活動や課外活動などの実績、学習意欲等を含めた学力試験では測ることのできない資質・能力・態度をより適切に評価するために、次の書類の提出を求める ・調査書（全入試区分）  ・多面的・総合的な評価のための申告書資料（志願者本人作成の「活動報告書」「大学入学希望理由書」「学修計画書」の3つの要素を含んだ書式・内容）  ・学校長推薦書（学校推薦型選抜）  ・学校長による志願者評価書（一部の総合型選抜）  ・学科などにより「活動実績報告書」「面接用事前レポート」「誓約書」等を課す場合がある	募集人員 公表



大学	選抜方式	共通テストの利用について							出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他	
		国語記述式		英語認定試験									
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他					活用の具体
信州	一般	●	総合評価を点数化して加点 (配点はマーク式160点、記述式40点) A: 40点 B: 32点 C: 24点 D: 16点 E1 (一部正解の答案): 8点 E1 (無回答に近い答案): 0点	●	○ A2 ※1	○			※1加点利用のみの学部は任意  共通テスト英語に加点 (共通テスト英語をリーディングとリスニングの比率を4:1として200点に換算し、英語認定試験20点を加えた合計220点満点をさらに200点に換算) C1以上: 20点 B2: 15点 B1: 9点 A2: 6点 A1: 3点  ※2教育-英語教育コースは出願資格としても活用	公表	・教育、医学部では面接試験を導入・強化する  ・面接を実施しない区分では、調査書を点数化して個別試験の得点に加点する (調査書の配点は25~50点※配点は区分により異なる)	・調査書を、主に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価資料として活用 (大学独自項目は設定しない)。具体的には個別学力検査で面接等を実施する入試ではその参考資料として活用。面接等を実施しない入試では、点数化し選考に利用  ・JAPAN e-Portfolioは利用しない	
	総合型・学校推薦型	●	総合評価を点数化して加点 (配点はマーク式160点、記述式40点) A: 40点 B: 32点 C: 24点 D: 16点 E1 (一部正解の答案): 8点 E1 (無回答に近い答案): 0点	●	○ A2 ※1	○			共通テストを課す選抜では共通テスト英語に加点 (共通テスト英語をリーディングとリスニングの比率を4:1として200点に換算し、英語認定試験20点を加えた合計220点満点をさらに200点に換算) C1以上: 20点 B2: 15点 B1: 9点 A2: 6点 A1: 3点  繊維学部 (共通テストを課さない学校推薦型選抜) では、提出書類の評価に含める  ※1教育-英語教育コースは出願資格としても活用	公表	・より明確な形で基礎学力の評価を加えた多面的な選抜になるよう、共通テストや総合問題等を活用した多様な入試を実施	・調査書を、主に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価資料として活用。具体的には個別学力検査で面接等を実施する入試ではその参考資料として活用。面接等を実施しない入試では、点数化し選考に利用  ・JAPAN e-Portfolioは利用しない	
静岡	一般	●	点数化して加点	●		○			点数化して加点 (英語総点250を想定した場合) C2:50点 C1:40点 B2:32点 B1:24点 A2:16点 A1:8点 ※総点250点の英語の得点に、各学部・学環が指定する比率を掛けたものを、合否判定用いる得点に算入する。また、状況に応じて救済措置を講じる可能性がある		・教育学部-前: 個別学力検査において、教員への適性・志向性を評価することを目的として、従来の選抜方法に加え「小論文」を導入  ・教育学部-後: 個別学力検査において「面接」(美術教育専修については「実技」)を「面接(小論文を含む)」に変更  ・人文社会科学部-前: 個別学力検査において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に判断するため、従来の選抜方法に加え「小論文(法・経済学科では国語の一部として実施)」を導入  ・理-創造理学: 前期日程を実施  ・理学部-後: 数学・物理・生物科学・創造理学コースで調査書を活用、化学・地球科学で「小論文」を導入  ・農学部-後: 生物資源科学で調査書を利用、応用生命科学で「面接」を導入  ・情報-情報科学、行動情報、で共通テスト国語の範囲変更 (現代文→現古漢)		
	学校推薦型	●	点数化して加点	●		○			点数化して加点 (英語総点250を想定した場合) C2:50点 C1:40点 B2:32点 B1:24点 A2:16点 A1:8点 総点250点の英語の得点に、各学部・学環が指定する比率を掛けたものを、合否判定用いる得点に算入する。また、状況に応じて救済措置を講じる可能性がある		・教育-学校-英語教育の推薦入試、工学部専門学科及び総合学科枠のA0入試において、出願要件の変更あり  ・人文社会科学(夜間主)および情報-情報科学、行動情報、で共通テスト国語の範囲変更 (現代文→現古漢)		
浜松医科	一般	●	点数化して加点	▲	○ A2				高等学校等による英語力についての証明書や、認定試験成績・証明書を提出できない理由書での代替可	医-医は5教科7科目、医-看護は5教科5(6)科目を課す		・学力の3要素の評価を重視し、個別学力検査での記述式問題や小論文、面接等の評価に併せて調査書、推薦書や志願者本人が記載する資料等を活用する	
	学校推薦型	●	点数化して加点	▲	○ A2				高等学校等による英語力についての証明書や、認定試験成績・証明書を提出できない理由書での代替可	医-医は5教科7科目、医-看護は5教科5(6)科目を課す		・学力の3要素の評価を重視し、個別学力検査での記述式問題や小論文、面接等の評価に併せて調査書、推薦書や志願者本人が記載する資料等を活用する	

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他		
		国語記述式		英語認定試験					その他						
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他						活用の具体	
愛知教育	一般	●	点数化して加点（配点はマーク式200点、記述式40点を200点満点に換算する）	▲		○				共通テスト英語に加点（配点は共通テスト英語250点、英語認定試験40点の合計を200点満点に換算） B2以上：40点 B1：25点 A2：10点 A1：0点 ※既卒者については、選抜実施前年度の試験結果も活用可	5教科7科目を課す		・前期日程では、調査書を点数化して共通テスト+個別試験の得点と合わせて選考に利用する ・後期日程では、AP試験の参考資料として調査書を利用する ※AP試験：アドミッション・ポリシーに基づく試験のことで、大学が望む学生像に必要な学力を面接のなかで測るもの（討論、実技、筆記等を含むことがある）	・アドミッション・ポリシーに基づき多面的・総合的に評価するため、学力の3要素の評価を重視して、個別学力検査での記述式問題・小論文・面接等の評価に併せて、調査書・推薦書や志願者本人が記載する資料等を活用する	
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点（配点はマーク式200点、記述式40点を200点満点に換算する）	▲		○				共通テスト英語に加点（配点は共通テスト英語250点、英語認定試験40点の合計を200点満点に換算） B2以上：40点 B1：25点 A2：10点 A1：0点 ※既卒者については、選抜実施前年度の試験結果も活用可			・共通テストを課さない推薦入試を廃止 ・総合型選抜を新規実施		
豊橋技術科学	一般	●		●		○				点数化して共通テスト英語に加点	5教科7科目を課す		・論理的思考力・判断力・表現力を適切に評価する高度な記述式試験を実施		募集人員公表
	総合型			●									・共通テストを課さず、英語認定試験の成績、面接、調査書及び本人が記載する志望理由書、エッセイ等を活用		募集人員公表
	学校推薦型												・共通テストを課さず、素養調査、小論文、面接、推薦書、調査書及び本人が記載する志望理由書等を活用		募集人員公表
名古屋	一般	●	点数化して加算し、200点満点に換算	▲	○	A2				高等学校による証明書、スコアを提出できない理由書で代替可			・個別学力検査で英語以外の外国語を廃止 ・医-保健-前の個別学力検査で、国語（現代文）150点が追加 ・医-医-前の個別試験で、国語の出題範囲が現代文のみ（国語総合・現代文B）に変更（現行入試は現古漢） ・医-医-後の2段階選抜を廃止		
	学校推薦型（文、教育、理学部除く）	●	点数化して加算し、200点満点に換算	▲	○	A2				高等学校による証明書、スコアを提出できない理由書で代替可					
名古屋工業	一般	●	総合評価を点数化して加点	●		○				共通テスト英語に加点（配点は共通テスト英語200点と英語認定試験20点の合計を200点満点に換算） C1以上：20点 B2：15点 B1, A2：10点 A1：0点	5教科7科目を課す	公表	・高度な記述式試験の実施に努める	・学力の3要素を適切に評価するため、調査書等の資料を積極的に活用	
	総合型・学校推薦型	●	総合評価を点数化して加点	●	○	A2	○	※1	○	※2	※1共通テストを課さない学校推薦型選抜（創造-材料・エネルギー、情報・社会）のみ ※2共通テストを課す学校推薦型選抜では、共通テスト英語に加点（配点は共通テスト英語200点と英語認定試験20点の合計を200点満点に換算） C1以上：20点 B2：15点 B1, A2：10点 A1：0点	5教科7科目を課す	公表	・総合型選抜では、志願者自らの意思による公募制という観点から面接、調査書及び本人の記載する資料（エントリーカード等）を活用 ・共通テストを課さない学校推薦型選抜では、面接、教科・科目に係る筆記試験、学校長の推薦書、調査書及び本人記載の資料（エントリーカード等）を活用 ・共通テストを課す学校推薦型選抜では共通テストの得点のほか、面接、学校長の推薦書、調査書及び本人記載の資料（エントリーカード等）を活用	
岐阜	一般	●	点数化して加点	●	○	A2	○	※1	○	※2	※1医-医のみ ※2医-医以外 共通テスト英語に加点	5教科7科目を課す		・個別試験において、高度な記述式試験の実施に努める	
	学校推薦型	●	点数化して加点	●	○	A2	○	※1	○	※2	※1医-医のみ ※2医-医以外 共通テスト英語に加点	5教科7科目を課す		・共通テスト、小論文、面接、調査書および志願者本人が記載する資料等を活用	

大学	選抜方式	共通テストの利用について							出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他		
		国語記述式		英語認定試験										
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他					活用の具体	その他
三重	一般	●	点数化して加点 (マーク式200点満点を上限に最大20点加点) A: 20点 B: 15点 C: 10点 D: 5点 E: 加点なし	●		○			共通テスト英語に加点(加点の配点は、共通テスト英語の配点の10%) C1以上: 10% B2以下: 加点対象外  ※ただし共通テスト外国語でその他外国語選択者には英語認定試験は課さない	5教科7科目を課す(一部学科・コース除く)	公表	・論理的思考力・判断力・表現力を評価する 高度な記述式問題で構成する試験の実施に努める  ・医-看護-前の個別試験では、外国語、面接に加え新たに国語または数学を課す	・面接を課す学科コースでは、調査書等を活用し、「主体性・多様性・協働性」を含め総合的に評価する  ・人文、生物資源学部(後期)でペーパーインタビューを実施し「主体性・多様性・協働性」を評価する(人文学部は検討中)  ※ペーパーインタビュー 試験当日に学部等が定めたインタビュー項目に記述式により回答をもとめる選抜方法	
	総合型・ 学校推薦型	●	点数化して加点 (マーク式200点満点を上限に最大20点加点) A: 20点 B: 15点 C: 10点 D: 5点 E: 加点なし	●		○			共通テスト英語に加点(加点の配点は、共通テスト英語の配点の10%) C1以上: 10% B2以下: 加点対象外		公表	・教育学部で地域推薦(三重県全域枠)を実施  ・教育-理科教育で、学校推薦型選抜Ⅱの募集停止  ・人文-文化で共通テストを課す学校推薦型選抜を実施	・面接を課す学科コースでは、調査書等を活用し、「主体性・多様性・協働性」を含め総合的に評価する	
滋賀	一般	●	点数化して加点	●	○ A2					5教科7科目を課す		・経済学部(夜)の一般選抜廃止 ・経済学部-前の個別試験において、国語の出題範囲の変更(古文・漢文は課さない)	・アドミッション・ポリシーに基づき、各教科・科目において、論理的思考力・判断力・表現力を評価  ・多面的・総合的な評価を実現するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用する方法を引き続き検討する	経済学部のみ募集 人員公表
	総合型			×								・経済学部(昼)で総合型選抜導入  ・経済学部(夜)は全定員を総合型選抜(新規実施)に移行  ・データサイエンス学部のAO入試は実施方法変更	・多面的・総合的な評価を実現するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用する方法を引き続き検討する	経済学部のみ募集 人員公表
	学校推薦型			×								・教育-初等英語-英語の専門課題の変更(リスニングから実技(音読および口頭で伝える力を評価する))	・多面的・総合的な評価を実現するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用する方法を引き続き検討する	経済学部のみ募集 人員公表
滋賀医科	一般	●	点数化して加点	●	○ A1				出願資格を証明する理由書で代替可	医-医は5教科7科目、医-看護は5教科5科目を課す		・各教科・科目において、自然科学分野における幅広い教養と深い知識、応用力とともに、理解力、読解力、語学力を測る作問や、理解力、思考力及び表現力など理論的に判断・推理を重ねて対象をとらえる力を測る作問に努める	・多面的・総合的な評価を実現するため、調査書や志願者本人の記載する資料、面接等を活用	
	学校推薦型	●	点数化して加点	●	○ A1				出願資格を証明する理由書で代替可	医-医は5教科7科目、医-看護は5教科5科目を課す		・多面的・総合的な評価を実現するため、医学科においては小論文を課す。また、医学科・看護学科ともに、推薦書、調査書や志願理由書等の志願者本人の記載する資料、面接等を活用		
京都	一般	●	点数化して加点	▲	○ A2				高等学校長による証明書等の書類で代替可					特色入試における共通テスト・英語認定試験の利用については30年度内に予告する
京都教育	一般	●	点数化して加点	●	○ A1	○ ※			※英語領域専攻のみ、A2以上の場合に共通テスト英語に加点					
京都工芸 繊維	一般	●	点数化して合否判定に用いることはせず、共通テストと個別学力検査の合計点で同点となった場合に活用する	×						5教科7科目を課す		・共通テスト英語は、すべての課程でリスニングを課す	・共通テストと個別学力検査の合計点で同点となった場合に、調査書を活用する	
大阪	一般	●	点数化して加点	● ※	○ A2				※学校長による証明書で代替可とする特例処置あり	5教科7科目を課す		・論理的思考力・判断力・表現力を評価するため、高度な記述式問題を出題する  ・医-医の面接は、複数の面接員による評価を参考にして、場合によっては複数回面接をすることがある  ・人間科学部で第1段階選抜を新規実施(2.4倍)  ・薬学部で第1段階選抜の倍率変更(4倍→2.5倍)  ・薬学部で個別学力検査の他に、小論文と面接を課す(面接の結果によっては、筆記試験の結果に関わらず不合格となることもある。なお、複数の面接員による評価を参考にして、場合によっては複数回面接をすることがある)		
	総合型・ 学校推薦型											・医-医の学校推薦型の面接は、複数の面接員による評価を参考にして、場合によっては複数回面接をすることがある		
大阪教育	一般	●		●		○			共通テスト英語に加点(加点の点数は、英語全体の満点の1~2割程度)	科目変更なし			・学力の3要素を多面的・総合的に評価できる選抜を検討  ・教員養成課程は教員への志望度や適性を、教育協働学科は教育協働人材への志望度や適性をはかることのできる選抜を検討。そのために調査書や志願者本人が記載する資料等を活用する予定	

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他	
		国語記述式		英語認定試験					その他					
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他						活用の具体
神戸	一般	●	点数化して加点	●	○ A2					5教科7科目を課す	・医-保健-作業療法学の後期日程廃止		募集人員 公表	
	総合型	●	点数化して加点								・国際人間科学-環境共生の「研究実績受験」を廃止 ・理-生物・惑星の提出書類「学業等評価書」を廃止 ・「志」特別入試の提出書類「学業等評価書」を廃止		募集人員 公表	
	学校推薦型	●	点数化して加点								・医-保健-作業療法学で、学校推薦型選抜を新規実施 ・経営学部で推薦書・調査書・自己推薦書による書類審査を新規実施		募集人員 公表	
兵庫教育	一般	●	点数化して加点	●		○				点数化して加点 C1以上:50点 B2:40点 B1:20点 A2以下:加点なし	5教科7(8)科目または6教科7(8)科目を課す	・前期:全受験者に共通テスト、小論文及び面接を課す ・後期:全受験生に共通テスト及び面接を課す		
	学校推薦型	●	点数化して加点	●		○				点数化して加点 C1以上:50点 B2:40点 B1:20点 A2以下:加点なし	3教科3(4)科目を課す	・全受験生に共通テスト及び面接を課す		
奈良教育	一般	●	点数化して加点	▲	○ A1					高等学校による英語力のレベルを有する証明書で代替可				
	総合型	●	記述式問題を課した場合と課さない場合で比較し、得点割合が高い方を利用	▲	○ A1					高等学校による英語力のレベルを有する証明書で代替可		・共通テストの成績を利用する		
奈良女子	一般	●	点数化して加点	▲	○ A2					高等学校等による証明書、英語認定試験のスコアまたは高等学校等による証明書を提出できない理由書で代替可	公表			
	総合型			● ※						※理、生活環境-情報-生活情報通信科学を除く学部・学科の総合型選抜「Q」では、提出書類として成績提出を求める(生活環境-生活文化は、英検、IELTS、TOEFL iBT、TOEICのみ対象)	公表	・総合型選抜「Q」を新規実施。全学で募集人員33名。一次選抜:書類審査、二次選抜:口述試験・小論文・プレゼンテーションや実験など(共通テストは課さない)		
	学校推薦型			▲	○ A2					高等学校等による証明書、英語認定試験のスコアまたは高等学校等による証明書を提出できない理由書で代替可	公表	・文-人間科学「子ども教育専修プログラム」を学校推薦型選抜(共通テストを課す選抜)のみで募集する		
和歌山	一般	●	点数化して加点	▲		○				教育、経済学部はA1以上、システム工、観光学部はA2以上は、共通テスト英語に加点		・論理的思考力・判断力・表現力を評価する高度な記述式試験を課す	・「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料等を活用することを検討	
	学校推薦型			▲		○				教育、経済学部はA1以上、システム工、観光学部はA2以上は、共通テスト英語に加点			・「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用する	
鳥取	一般	●	点数化して加点	●	○ ※1	○ ※2				※1医-医、農-共同獣医のみ ※2CEFR対照表に基づき加点する医(保健を除く)、工:共通テスト英語の満点の2割程度 医-保健:共通テスト英語の満点の1割程度 地域:共通テスト英語の満点の5%程度(共通テスト英語の満点を超えないものとする) 農-生命環境農学:共通テスト英語の満点の1割程度(共通テスト英語の満点を超えないものとする)	公表			
	学校推薦型										公表			

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他		
		国語記述式		英語認定試験					その他						
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他						活用の具体	
島根	一般	●	点数化して加点	●	○ A2 ※1	○ ※2				※1医-医のみ ※2医学科以外は、CEFR対照表に基づき、共通テスト英語に加点	5教科7科目を課す	公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な記述式試験の実施については、各教科・科目において、一層論理的思考力・判断力・表現力等を評価する作問に努める</li> <li>教育-学校教育I類-前の個別試験は、学科試験から小論文と調査書に変更</li> <li>教育-学校教育I類-後、学校教育II類-前の個別試験に調査書を追加</li> <li>総合理工-数理科学-後の個別試験は、学科試験から小論文に変更</li> <li>総合理工-建築デザイン-後の個別試験に新たに面接を課す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JAPAN e-Portfolioは利用しない</li> <li>多面的、総合的評価を実現するため、調査書、面接等を活用することがある</li> </ul>	
	総合型・学校推薦型											公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>募集人員は、2021年度入学者選抜の全学部入学店員の30%程度とする</li> <li>総合型選抜「へるん入試」を新規実施。通常の「へるん入試」と特別の志向や能力を評価する「特定型」の入試を実施。共通テストを課さず、書類審査や面接と「読解・表現力試験」を活用。総合理工学部は「理数基礎テスト（仮称）」を活用</li> <li>教育-学校教育I類-総合型IIの個別試験で、小論文を廃止し、調査書を追加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JAPAN e-Portfolioは利用しない</li> </ul>	
岡山	一般	●	総合評価を点数化し、マークシート式の得点（200点満点×0.9）に加点 A:20点 B:15点 C:10点 D:5点 E:0点	●	○					合否判定に利用しないが、A2レベル以上の英語能力を有していることが望ましい	5教科7科目を課す	公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な記述式試験の実施については、論理的思考力・判断力・表現力の評価を目的に従来から記述式問題を取り入れて実施している個別学力検査について、より適切に評価するため、作問などの改善に努める</li> <li>前期の個別試験の理科「地学」を廃止</li> <li>経済学部（夜間主コース）の後期日程廃止</li> <li>薬-薬-前・後、創薬科学-後で新たに面接を課す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書により学修状況の極めて優れたところを評価することとし、最終的な合格者決定の際の資料とする</li> <li>面接を課す学部・学科等の選抜では、面接において評価を行う場合もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学部と環境理工学部を再編し、新たな工学部を設置予定</li> </ul>
	総合型・学校推薦型	●	総合評価を点数化し、マークシート式の得点（200点満点×0.9）に加点 A:20点 B:15点 C:10点 D:5点 E:0点	●	○						現行入試と同様		<ul style="list-style-type: none"> <li>薬学部の総合型選抜の面接には口述試験を含む</li> <li>ディスカバリー入試は、一般型と実績評価型の募集から、文系と理系の募集に変更。最終選考では、記述問題（英語）、プレゼンテーション、面接（口述試験を含む）に加え、文系では口述試験（文章読解）、理系では記述問題（理系）を課す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書の他、志望理由書や推薦書も含めた書類審査や面接によって評価を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰国子女入試の廃止</li> <li>工学部と環境理工学部を再編し、新たな工学部を設置予定</li> </ul>
広島	一般	●	総合評価を点数化して加点（配点はマークシート式9割、記述式1割）	●						B2以上の場合、共通テスト英語の得点を満点とみなす（認定試験は受験年度の結果に限る）	5教科7科目を課す		<ul style="list-style-type: none"> <li>実施教科・科目は現行どおり</li> <li>高度な記述式試験の実施については、各教科・科目において一層論理的思考力・判断力・表現力等を評価する作問に努める</li> <li>多面的・総合的評価を実現するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用する。特に後期は、面接を実施するように努める（調査書は点数化しない）</li> </ul>		
	総合型・学校推薦型			●						条件を全て満たした場合、共通テスト英語の得点を満点とみなす（認定試験は受験年度の前々年度の結果から利用可）			<ul style="list-style-type: none"> <li>広島大学光り輝き入試を実施。多面的・総合的評価を実現するため、調査書や志願者本人が記載する資料、面接等を活用するが、調査書については当面点数化せず、志願者が提出した書類と併せて総合的に評価する</li> <li>文-人文の総合型選抜IIIを廃止し、IIに変更する</li> </ul>		
山口	一般	●		●						共通テストに加点	5教科7科目を課す	公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目変更あり</li> </ul>		募集人員公表
	学校推薦型			●								公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目変更あり</li> </ul>		募集人員公表
徳島	一般	●	点数化して加点	●	○ A1 ※					※医-医、歯-歯、薬はA2		公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接を課さない学部・学科・専攻（総合科学-社会総合科学、医-医科栄養、医-保健-検査技術科学、薬-創製薬科学、理工-理工[昼間、夜間主]）の前期の合否判定はA選考、B選考の順で実施 A選考（募集人員の9割程度）：共通テスト+個別試験の合計点の成績上位者を合格とし、調査書は従来通り参考扱い B選考：個別試験の配点5～10%を上限に調査書の評価得点を加点。調査書で評価する内容は、特別活動の記録、指導上参考となる諸事項（部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等）などの客観的な記録部分を重点的に確認</li> <li>医-医科栄養で後期日程を廃止</li> </ul>		募集人員公表
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点	●	○ A1 ※1					※1医-医、歯-歯、薬はA2 総合科学部の学校推薦型選抜I（英語能力重視型）では、2年以内に取得したスコアが有効。また英検（従来型）も利用可		公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合科学部の学校推薦型選抜Iで、小論文の得点が100点満点中60点未満の場合は不合格とする</li> </ul>		募集人員公表
鳴門教育	一般	●	点数化して加点	●						共通テスト英語に加点		公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てのコースで面接を実施する</li> </ul>		募集人員公表
	学校推薦型	●	点数化して加点	●						共通テスト英語に加点		公表			募集人員公表

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他		
		国語記述式		英語認定試験					その他						
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他						活用の具体	
香川	一般	●	段階別評価を利用	●	○ A1 ※					※医-医はA2		公表	・医-医の後期日程廃止		募集人員 公表
	総合型											公表	・選抜方法詳細公表		募集人員 公表
	学校推薦型	●	段階別評価を利用									公表	・選抜方法詳細公表		募集人員 公表
愛媛	一般	●	点数化して加点（配点の割合は、マーク式9割、記述式1割）  下記は国語の配点が200点（マーク式180点、記述式20点）の場合 A：20点 B：15点 C：10点 D：5点 E：0点	●	○ A1 ※					※医-医はA2	5教科7科目を課す	公表	・医-医の後期日程廃止  ・社会共創-環境デザイン、医-医-前の個別学力検査「外国語（英語）」を「総合問題」に変更  ・社会共創-地域資源マネジメント（農山漁村マネジメント）の共通テスト出題教科・科目数を現行の3教科3科目から5教科5科目に変更	・前・後期の個別試験で学部が指定する①～③のいずれかを含めることで多面的・総合的な選抜を行う ①調査書、②面接、③調査書と本人記載の活動報告書等の書類（①～③はいずれも点数化する）  ・調査書を単独で点数化する場合の配点割合は総得点の5～10%程度とし、活動経験やその成果等の記載内容を踏まえ「勉学や諸活動に対する意欲」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等を評価する。調査書が提出できない場合は、志願者本人が作成する「活動調書」を評価する	・募集人員公表（一部変更あり）
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点（配点の割合は、マーク式9割、記述式1割）  下記は国語の配点が200点（マーク式180点、記述式20点）の場合 A：20点 B：15点 C：10点 D：5点 E：0点	●※1	○ A1 ※1 ※2					※1一部学部で利用 総合型Ⅱは、農・医-医-学校推薦型Ⅱは、工（電気電子工学コースを除く）・医-医-医-看護（地域特別枠を除く）  ※2医-医はA2		公表	・共通テストを課す選抜および課さない選抜のいずれも、「調査書」「活動報告書」の評価を行う。さらに選抜の種類に応じて、それ以外の書類や他の方法を組み合わせ、より多面的・総合的な選抜を行う  ・社会共創-産業マネジメントの総合型選抜Ⅱを3区分→2区分に変更  ・医-医で共通テスト5教科7科目を課す総合型選抜Ⅱ（愛媛県内出身者対象）を新規実施  ・医-看護の学校推薦型選抜Ⅱ（共通テスト3教科3科目を課す）において、地域特別枠推薦（愛媛県内出身者対象）を新規実施	・募集人員公表（一部変更あり）	
高知	一般	●	点数化して加点	●	○ A1							公表	・人文社会科学-社会科学コース、教育学部は後期日程を廃止	・前期では、人文社会科学、教育（科学技術教育コース除く）、理工、農林海洋科学-海洋資源科学で、調査書や活動報告書を採点し総合点に加える  ・後期では、理工-生物化学で活動報告書を採点し総合点に加える	
	学校推薦型	●	点数化して加点	●	○ A1							公表	・人文社会科学-社会科学、教育理工-数学物理で学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）を新規実施  ・理工-数学物理で推薦入試Ⅰ（共通テストを課さない）を廃止  ・理工学部の総合型選抜Ⅰで、志望理由書（100点）の採点を廃止  ・その他選抜方法の変更あり	・面接の資料として、調査書・推薦書・志望理由書・学習計画書等を活用する	
九州	一般	●		▲	○ A2					「出願資格に関わる理由書」と「英語力についての証明書」の提出で代替可	現行入試と同様		・経済-経済工-後の出願書類で「志望理由書」を追加		経済-経済経営・医-保健-看護学のみ募集人員公表
	総合型												・医-保健-看護において、調査書と志望理由書の配点に変更あり		経済-経済経営・医-保健-看護学のみ募集人員公表
九州工業	一般	●	点数化して加点	●	○					換算表に基づき、英語の得点に算入する	5教科7科目を課す		・数学、理科において、問題解決につながる記述内容を評価すること等を通して、これまで以上に論理的思考力・判断力・表現力を評価する作問に努める	・高校等での教育活動を通じて身に付けた主体的で協働的な学びを評価するため、調査書を利用する	募集人員 公表
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点	●	○				○※	換算表に基づき、英語の得点に算入する（共通テストを課さない試験では、換算表に基づき総合点の中で評価）  ※総合型選抜Ⅰは第2段階選抜で利用	5教科7科目を課す		・特別選抜による募集人員を、全学部入学定員の30%程度に拡大  ・総合型選抜Ⅰを新規実施（選考は2段階選抜で実施する。第1段階選抜は志望類を指定せず大括りで実施）	・学校推薦型選抜において、学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、調査書や自己申告書等を活用する	・国際バカロレア入試を導入  ・募集人員 公表
福岡教育	一般	●	総合評価を点数化して加点（配点はマーク式160点、記述式40点）	●	○ A1									・面接では、思考力・判断力・表現力や教職への意欲、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価する	
	学校推薦型	●	総合評価を点数化して加点（配点はマーク式160点、記述式40点）	●	○ A1								・初等-幼児教育、特別-初等教育部の学校推薦型選抜の面接は、口頭試問を含む  ・特別-初等教育部の学校推薦型選抜Ⅰで新たに小論文を課す	・面接では、思考力・判断力・表現力や教職への意欲、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価する	
佐賀	一般	●		●	○					共通テスト英語に加点（CEFRの段階に対して係数を設定し、共通テストの英語得点に各係数を乗じたものを加算）	5教科7科目を課す（実技検査を課す一部の学部学科を除く）			・「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、教育、芸術地域デザイン-地域デザイン、経済、理工、農学部においては、現行の教科・科目等に加え、志願者本人が記載する高校在学中の活動実績資料等を活用する「特色加点制度」を実施する。芸術地域デザイン-芸術表現においては、実技検査のなかで評価する。医学部においては、現行どおり面接を用いる	

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他	
		国語記述式		英語認定試験					活用 の 具 体					その他
		利用	活用の 具 体	利用	出願資格	加点	換算	その他						
長崎	一般	●	総合評価を点数化して加点 (配点は、国語全体の満点の2割)	●	○ A2 ※				※多文化社会学部はB1以上	5教科7科目を課す	公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部の後期日程を廃止</li> <li>薬学部の後期日程において、2段階選抜の基準を変更する(募集人員の20倍を超えた場合に共通テストの成績で第1段階選抜を実施する)</li> <li>個別学力検査に思考力・判断力・表現力を評価する高度な記述式問題を導入</li> <li>調査書を配点の対象とする(配点割合は全体の10%以下)。調査書記入担当者の主観で記入する箇所は配点の対象としない。</li> <li>面接又はペーパー・インタビュー(面接に代わる筆記試験)を課す</li> </ul>	募集人員 公表	
	総合型・ 学校推薦型	●	総合評価を点数化して加点 (配点は、国語全体の満点の2割)	●	○ A2 ※				※共通テスト外国語を課す選抜のみ		選抜方法の変更がある区分のみ公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部の総合型選抜では共通テストを課す選抜に変更。特別支援教育の総合型選抜を廃止</li> <li>教育学部、歯学部、水産学部の学校推薦型選抜では共通テストを課す選抜に変更。教育-中学-実技の学校推薦型選抜を廃止</li> <li>経済学部では現行のAO入試I(実践力枠・グローバル枠)を廃止し、総合型選抜I・IIを導入</li> <li>提出書類、小論文、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の結果等を用い、学力の3要素を多面的・総合的に評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校推薦型選抜では推薦書に記載の学習歴や活動歴をふまえた学力の3要素も評価の資料の一部として活用</li> </ul>	募集人員 公表
熊本	一般	●		●	○ A1						公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力検査で課す教科・科目等は現行から大幅な変更は行わない予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査書等の活用による「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価については、面接を課す学科・課程では調査書等を参考に面接の中で測り、面接を課さない学科・課程では調査書等大学が提出を求める書類により評価を行う</li> <li>高校卒業程度認定試験合格者や高校卒業後5年以上経過等により調査書を提出できない者は「活動歴報告書」の提出を求める</li> </ul>	
大分	一般	●	点数化して加点 (マーク式200点、記述式40点の計240点を200点満点に換算)	●	○ -	○			共通テスト英語に加点(共通テスト英語200点、認定試験20点の計220点を200点満点に換算) B1以上:20点 A2:10点 A1以下:0点	5教科7科目を課す	公表		<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の3要素をバランスよく評価するために、小論文、面接、調査書等を活用する</li> </ul>	募集人員 公表
	総合型・ 学校推薦型	●	点数化して加点	●	○ -	○			共通テスト英語に加点(共通テスト英語200点、認定試験20点の計220点を200点満点に換算) B1以上:20点 A2:10点 A1以下:0点		公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>志願者本人が記載する資料、大学入学共通テスト、小論文、面接、調査書等を活用する</li> <li>総合型選抜では、医-医、福祉健康科学-理学療法、福祉健康科学-心理学で共通テストを課す</li> <li>学校推薦型選抜では、教育-小学校教育、教育-特別支援教育で共通テストを課す</li> </ul>	募集人員 公表	
宮崎	一般	●	点数化して加点	●	○ A1 ※1	○ ※2			※1 農はA1、医-医はA2 ※2 教育、工、医-看護、地域資源創成学部では点数化し手共通テスト英語に加点	5教科7科目を課す	公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部の全コース・専攻において、面接を実施する</li> <li>医-看護の共通テスト利用科目変更(数学が2科目必須になる、理科基礎が選択可になる)</li> <li>農-海洋生物環境-後の共通テスト利用科目数変更(地歴・公民1科目が追加)</li> <li>地域資源創成-前の個別試験教科・科目変更(英語、小論文→総合問題)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部・学科により、調査書、志願者本人が記載する資料を活用する</li> </ul>	募集人員 公表(変更あり)
	総合型・ 学校推薦型										公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育-学校-中学主免-音楽・美術・保健体育において、共通テストを課さない総合型選抜を実施(現行のAO入試はセンター試験を課す)</li> <li>医-看護において、共通テストを課す学校推薦型選抜を実施(現行の推薦入試はセンター試験を課さない)</li> <li>農-森林緑地環境科学において、総合型選抜を実施する</li> <li>地域資源創成学部の学校推薦型選抜の区分変更(2区分→1区分に統一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部・学科により、調査書、志願者本人が記載する資料を活用する</li> </ul>	募集人員 公表(変更あり)

大学	選抜方式	共通テストの利用について								出題科目 公表状況	入試の主な変更点など	主体性等の評価 について	その他	
		国語記述式		英語認定試験										
		利用	活用の具体	利用	出願資格	加点	換算	その他	活用の具体					
鹿児島	一般	●	点数化して加点	▲		○	○			認定試験の一定スコア水準を満たした者で、かつ共通テスト英語受験者のうち筆記・リスニング各80%以上の得点を取った者は、それぞれの英語の得点を満点とみなす。80%未満の場合は、英語の得点の25%を加点する	公表（共同獣医のみ）	・共通テストの利用教科・科目変更 共同獣医学部-前で地学が選択不可になる 共同獣医学部-後で3教科5科目から5教科7科目に変更（国、地歴・公民増）、数学Ⅰ、数学Ⅱが選択可能になる  ・個別試験の科目変更 共同獣医学部-前で英語増、地学の選択不可になる	・面接を課す学科コースでは、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や本人が記載する資料を参考に面接の中で総合的に評価する	
	総合型・学校推薦型	●	点数化して加点	▲		○	○			認定試験の一定スコア水準を満たした者で、かつ共通テスト英語受験者のうち筆記・リスニング各80%以上の得点を取った者は、それぞれの英語の得点を満点とみなす。80%未満の場合は、英語の得点の25%を加点する		・共通テストの利用教科・科目変更 学校推薦選抜の共同獣医学部-前で、地学が選択不可になる		
鹿屋体育	一般	●	点数化して加点（配点はマーク式160点、記述式40点）	●		○				共通テスト英語に加点（配点は共通テスト英語160点、英語認定試験40点）	公表	・5分程度の個人面接から、「プレゼンテーション（3分）＋口頭試問（7分）」試験に変更する。また、口頭試問の際に調査書を参考資料として活用する		募集人員 公表
	総合型・学校推薦型											・学校推薦型選抜は基本的な入試方法の変更なし  ・総合型選抜は、面接試験を「プレゼンテーション＋口頭試問」試験に変更し、複数人の試験員によって5段階で評価する 「自己推薦書」（「本学の志望理由」「入学後の目標・抱負」「将来の夢」の3点）を志願者本人が記載する資料として口頭試問の際の資料とする		募集人員 公表
琉球	一般	●	総合評価を点数化して加点（配点は、国語全体の満点の2割程度）	●	○ ※1	A2	○ ※2			※1医-医のみ ※2医-医以外  共通テスト英語に加点（配点は英語全体の満点の1割程度。教育-小学-学校教育のみ2割程度）		・教育-小学-学校教育、教科教育の一般選抜で後期日程を廃止  ・教育-小学-学校教育では、共通テスト数学の記述式問題について特別な配点を行うことを検討  ・農学部-後で個別学力検査を新たに実施する	・全ての入試区分において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料、小論文、面接等を活用する  ・JAPAN e-Portfolioを合否判定に利用しない	
	総合型・学校推薦型	●	総合評価を点数化して加点（配点は、国語全体の満点の2割程度）	●	○ ※1	A2	○ ※2			※1医-医、総合型選抜の教育-小学-学校教育のみ。 ※2医-医以外  共通テスト英語に加点（配点は英語全体の満点の1割程度。教育-小学-学校教育のみ2割程度）		・農、教育-小学-学校教育で総合型選抜を新規実施  ・農-健康栄養科学の学校推薦型（共通テストを課さない）を廃止	・全ての入試区分において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料、小論文、面接等を活用する  ・JAPAN e-Portfolioを合否判定に利用しない	